



切断されたリーフの復元

リーフにプッシュされた構成が原因で、リーフ上のすべてのファブリック インターフェイス（リーフをスパインに接続するインターフェイス）が無効になっている場合、リーフへの接続は永久に失われ、リーフはファブリック内で非アクティブになります。接続が失われたため、構成をリーフにプッシュしようとしても機能しません。この章では、切断されたリーフを回復する方法について説明します。

- [NX-OS-Style CLI を使用した切断されたリーフの復元 \(1 ページ\)](#)
- [REST API を使用した切断されたリーフの復元 \(2 ページ\)](#)

NX-OS-Style CLI を使用した切断されたリーフの復元

この手順では、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) NX-OS スタイルの CLI を使用してファブリック インターフェイスを有効にします。REST API コールを実行できる外部ツールがない場合は、この手順を使用します。



(注) この手順では、1/31 がスパイン スイッチに接続するリーフ スイッチ ポートの 1 つであることを前提としています。

ステップ 1 Cisco APIC NX-OS-style CLI を使用して、ブロック リスト ポリシーを削除します。

例 :

```
apic1# podId='1'  
apic1# nodeId='103'  
apic1# interface='eth1/31'  
apic1# icurl -sX POST 'http://127.0.0.1:7777/api/mo/.json' -d '{"fabricRsOosPath":{"attributes":  
  
{"dn":"uni/fabric/outofsvc/rsOosPath-[topology/pod-'$podId']/paths-'$nodeId'/pathep-['$interface']"},"status":"deleted"}}}'
```

ステップ 2 リーフ スイッチまたはスパイン スイッチの CLI を使用して、サービス中のポートを設定して、リーフ スイッチのポートを起動します。

例 :

```

switch1# podId='1'
switch1# nodeId='103'
switch1# interface='eth1/31'
switch1# icurl -X POST
'http://127.0.0.1:7777/api/node/mo/topology/pod-'$podId'/node-'$nodeId'/sys/action.json'
-d
'{"actionLSubj":{"attributes":{"oDn":"sys/phys-['$interface']"},"children":[{"l1EthIfSetInServiceLTask":
{"attributes":{"adminSt":"start"}}}]}}}'

```

REST API を使用した切断されたリーフの復元

切断されたリーフスイッチを復元するには、次のプロセスを使用して、ファブリックインターフェイスの少なくとも1つを有効にする必要があります。残りのインターフェイスは、GUI、REST API、または CLI を使用して有効にできます。

最初のインターフェイスを有効にするには、REST API を使用してポリシーを投稿し、投稿されたポリシーを削除し、ファブリックポートをアウトオブサービスにします。次のように、ポリシーをリーフスイッチにポストして、アウトオブサービスのポートをインサービスにすることができます。



(注) この手順では、1/49 がスパインスイッチに接続するリーフスイッチポートの1つであることを前提としています。

ステップ 1 REST API を使用して、Cisco APIC からブロック リスト ポリシーをクリアします。

例：

```

$APIC_Address/api/policymgr/mo/.xml
<polUni>
  <fabricInst>
    <fabricOOServicePol>
      <fabricRsOosPath tDn="topology/pod-1/paths-$LEAF_Id/pathep-[eth1/49]" lc="blacklist"
status ="deleted"/>
    </fabricOOServicePol>
  </fabricInst>
</polUni>

```

ステップ 2 ローカルタスクをノード自体にポストし、**l1EthIfSetInServiceLTask** を使用して必要なインターフェイスを起動します。

例：

```

$LEAF_Address/api/node/mo/topology/pod-1/node-$LEAF_Id/sys/action.xml
<actionLSubj oDn="sys/phys-[eth1/49]">
  <l1EthIfSetInServiceLTask adminSt='start'/>
</actionLSubj>

```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。